

南海トラフ巨大地震「新被害想定」が公表

南海トラフ巨大地震の被害想定が約12年振りに見直され、3月31日に公表されました。結果的には、死者数32万3000人から29万8000人とわずかな減少にとどまりました。本来であれば、12年の間に耐震構造の建築物の増加や防潮堤の建設、津波避難タワーの建設などが進み、死者数は格段に減少するはずなのですが、被害想定基準そのものが変更されたことが大きな理由となります。具体的には、地形データをこれまでより細かい最新のものを使ったことで、30センチ以上浸水する面積が全体で3割以上増えました。また、津波からの避難が遅れることを想定に入れたことも影響を与えています。

わずかな減少にとどまってしまった「新被害想定」ですが、被害想定を大きく減らす方法もあります。内閣府は浸水のおそれがあるところから全員がすぐに避難すれば津波の死者はおおよそ7割減ると試算しています。「新被害想定」での死者数29万8000人のうち、津波によるものは21万5000人と想定されていますので、私たち一人ひとりの意識次第で死者数は約6万5000人まで減少することになります。他にも、現状の全国平均35.9%の家具の固定率が、もしも100%になれば、倒れた家具の下敷きになったり落下した物に当たったりして亡くなる人はおおよそ7割減ると試算されています。

行政が様々な取り組みを行うことも重要ですが、**個人でできる「津波からの迅速な避難」や「地震への備え」などの取り組みもとても重要です。**今後30年以内に約80%の確率で「南海トラフ巨大地震」は発生するとされています。「自らの命は自らが守る」という意識をもって備えを続けましょう。

〈 防災士 荻野 勝也 〉

